

## メッセージアウトライン

### ローマ16：5b～16「パウロのあいさつⅡ」

[5b]「私の愛するエパネトによろしく。この人はアジアでキリストを信じた最初の人です」  
エパネトはパウロが第2回伝道旅行の帰途、小アジアのエペソに渡った時か、あるいは第3回伝道旅行の時に福音を聞いて信じた最初の人であったと思われる。→使徒18:19~21、19章 このアジアとは小アジアの西海岸の州のこと。今このエパネトはローマにいる。

[6]「あなたがたのために非常に労苦したマリヤによろしく」

彼女はローマのクリスチャンたちのために献身的な奉仕をしていた人であった。

[7]「私の同国人で私といっしょに投獄されたことのある、アンドロニコとユニアスにもよろしく。この人々は使徒たちの間によく知られている人々で、また私より先にキリストにある者となったのです」 彼らはパウロと同じユダヤ人であり、パウロとともに投獄された経験もあり、使徒たちの間での評判もよく、しかもパウロより先に信仰を持った人々であった。

[8]「主にあって私の愛するアムプリアトによろしく」 彼の名前は当時一般的な名であり、特にローマ皇帝の家の者たちに多く使われていた。それで可能性としては福音が早くもローマ皇帝のひざもとにまで及んでいたということも考えられる。

[9]「キリストにあって私たちの同労者であるウルバノと、私の愛するスタキスとによろしく」 ウルバノはローマ名、スタキスはギリシヤ名

[10]「キリストにあって練達したアペレによろしく。アリストブロの家の人たちによろしく」 アペレは信仰的に非常に立派な人であったのであろう。「家の人たち」とはその家族だけの意味ではなく、その家に属する使用人、奴隷すべてを含む表現。あのヘロデ大王のひ孫にアリストブロと言う人物がおり、ローマに住んでいたことがわかっている。

[11]「私の同国人ヘロデオンによろしく。ナルキソの家の主にある人たちによろしく」  
ヘロデオンはヘロデ王家と関係のある名前であり、パウロは親しみを込めて「私の同国人」と呼びかける。ナルキソは聖書学者の研究によればかつて奴隷であったが解放されて自由民となり、皇帝クラウデウスの秘書となった人物と考えられている。彼は悪名高き人物であったが、その彼の家からクリスチャンとなる人々が出た。これはどのような悪や墮落のもとにある人々であってもキリストの恵みによって救われ変えられるということの実例となる。

[12]「主にあって労している、ツルパナとツルポサによろしく。主にあって非常に労苦した愛するペルシスによろしく」 ツルパナは「優美」、ツルポサは「繊細」という意味がある。それゆえ二人は双子の姉妹であったとも考えられる。皇帝の家にも同じ名前の人々がいたことがわかっている。ペルシスは一般的な名前。彼らが主にある労苦を惜しまない人々であることがパウロの耳にまで伝わっていたのである。

[13]「主にあって選ばれた人ルポスによろしく。また彼と私との母によろしく」

ルポスの名はマルコ15:21にも出てきており、もし同一人物ならば彼の父は主イエスに代わってゴルゴタの丘まで十字架を背負ったあのクレネ出身のシモンということになる。

「彼と私との母」とはパウロの母はルポスの母でもあるという意味ではなく、ルポスと

その母に対して特別な親愛と尊敬の気持ちを表わしているのである。

[14]「アスクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマスおよびその人たちといっしょにいる兄弟たちによろしく」 彼らはローマにいる奴隷階級の中でよく見られる名前である。しかし、そうであっても彼らもキリストにあるがゆえに主にある兄弟姉妹の一員なのである。

[15]「フィロロゴとユリヤ、ネレオとその姉妹、オルンパおよびその人たちといっしょにいるすべての聖徒たちによろしく」 フィロロゴも奴隷の名によく見られ、ユリヤも一般的な女性名。二人は夫婦ではなかったかと考えられている。ネレオはドミティアヌスに追放された皇帝の家に属する婦人ではないかと考えられている。オルンパも一般的な女性名。パウロの親愛と尊敬を込めたあいさつは彼らおよび彼らといっしょにいるすべての聖徒たちへと広がる。

[16]「あなたがたは聖なる口づけをもって互いのあいさつをかわしなさい。キリストの教会はみな、あなたがたによろしくと言っています」

口づけをもってあいさつをかわすのは当時の一般的な習慣であった。今日の私たちで言えばこれは握手かお辞儀に相当するであろう。

最後の締めくくりとしてパウロは「キリストの教会はみな」とローマ以外のすべての教会を代表して「よろしく」とあいさつを送る。教会はすべてキリストのものであり、教会どうしは互いに友好関係を持ち、交わり、支え合い、助け合うべきものだからである。

このようにローマにいる多くのクリスチャンたちに対する親しみのこもった呼びかけとあいさつにパウロの深い愛と配慮を見ることができる。このようにあいさつを送ることによって、彼は教会の一致と発展を願っているのである。